

八代通町の歴史遺産

通町の歴史・妙見祭笠鉾「西王母」に関する手引書作成



通町町内会 笠鉾西王母保存会

平成26年度八代市がまだしもん応援事業

はじめに

当町内は、国指定重要無形民俗文化財「八代妙見祭の神幸行事」に、笠鉾「西王母」を奉納している。

昭和四十年代まで、子ども警護には町内の仲良しクラブの男児、それも小学校高学年しか参加できないほどの児童がいた。しかし、最近では、町内児童が激減し、他の地域に依頼して参加している状況である。

日本の地方過疎化・少子高齢化の問題はこの妙見祭参加にも影響が出てきている。また、妙見祭事前準備、笠鉾組み立て、本番、片付け、収納に一ヶ月以上の時間と労力をかけ、毎年行っているが、最近では町内居住者も高齢化し、笠鉾組み立てが困難になってきている。移住者や毎年新規で参加している方々に、この作業をお願いするには種々の困難がある。

そこで、通町の歴史、妙見祭の内容、笠鉾「西王母」についての歴史、また笠鉾の組み立て図、衣装の着付けを集約した手引書と笠鉾組み立ての視覚資料教材（写真・ビデオ）を作成し、町内の次の世代や参加者はもちろん、八代の方々にも歴史ある妙見祭の内容を伝えていくことが大事だと考える。妙見祭が長年継承すべき、国の文化遺産であることを、後継者育成と共に自覚し、これがモデルとなり、ほかの笠鉾町内ごとに手引書が作成されることを期待する。

【表】 通町の歴史

現在の「通町」は、江戸時代、八代城を囲んでいた城下町だったところで、当時は「新町」と呼ばれていた。新町という町名の由来は、今から約四百年前、八代城下が建設されたとき、本町や二之町に配しきれない新興の町衆に割り当てられた町屋街であったことによるといわれている。昭和四十年に旧八代町に入る第一の大通りであることから「通町」となった。

町の中央を東西に薩摩街道が通り、東側には八代城下への出入りを守る松江口番所があった。

「八代城城郭図」（松井文庫所蔵）より新町（現在の「通町」）部分



観音堂について

町内には、歴史的遺産が今もたくさん残っている。

まず、世界的建築家伊東豊雄氏の設計になる「通町ギャラリー8」内には、かつてこの場所にあった観音堂（水月庵）の建物が保存され、観音像『楊柳観音』が大切にまつられている。

『楊柳観音』は、法華経普門品（観音経）にかかる三十三観音の一つで、別名「薬王観音」とも呼ばれ、病苦を除く菩薩で、柳の小枝を持ち、「病を除くためには、楊柳枝薬法を修めよ」との経典を表したものである。

つまり、楊柳を持つて、種々の難病を消去する事を本誓とする。

「八代郡誌」によれば、「天正年間（一五七三年から一五九一年）キリシタン大名で、小西行长支配のとき、庵が破壊され、本尊は井水に投げ捨てられたが、早速信者によって拾い上げられ、本堂に安置し、寛永九年（一六三二年）十二月二十二日、三齋公（忠興）が八代入城後、本堂を再建し、本尊として祀った。」という内容が記されている。

また、観音堂前の「光圓寺」には、慶長十九年（一六一四年）細川忠興（三齋）が、織田信長の三十三回忌に作らせたという貴重な梵鐘（熊本県指定重要文化財）が残っているのははじめ、本堂の天井画は、八代城の御用絵師安藤雲桂が描いた立派なものである。



楊柳観音

通町観音堂



通町ギャラリー8



光圓寺の梵鐘



光圓寺の天井画



【式】 妙見祭の歴史

妙見宮について

妙見祭は、八代市妙見町にある「八代神社」の秋の大祭である。八代神社は、江戸時代以前は「妙見宮」と呼ばれ、この地域で最も大きな神社として人々の崇敬を集めてきた。

その歴史は古く、天武天皇白鳳九年（六八〇年）年に、八千把村竹原津（現在の八代市立第二中学校に隣接する竹原神社の辺りと考えられていた）に鎮座したのが始まりと伝えられている。その後、延暦十四年（七九五）年に横嶽（三室山）の山頂に上宮が創建され、永暦元年（一一六〇）年には上宮の麓に中宮、文治二年（一一八八年）に現在の八代神社の場所に下宮が創建された。

妙見祭について

妙見宮の周辺には、多くの寺院が立ち並び、商工業者が門前町を形成していた。十四世紀になると、八代を支配した名和氏が、妙見宮の南に山城・古麓城（当時の八代城）を築いたので、妙見宮周辺は、八代の政治・経済・文化の中心地として、ますます栄えることになった。名和氏にかわって八代を治めた相良氏の時代（十六世紀）には、すでに妙見下宮から中宮へ神輿の神幸、舞楽や流鏑馬などの祭礼行事が行われ、多くの見物人を集めていたようである。

天正九年（一五八一年）古麓城主相良義陽が響ヶ原の戦いに破れ、八代は島津氏の支配下に置かれた。天正十五年（一五八七年）、豊臣秀吉の九州平定によって、島津氏は退き、八代を含む肥後南部は小西行長に任された。

行長は、水運の便のよい球磨川河口に新しい城（麦島城）を築き、古麓城下の人々も新しい城下へ移り住んでいった。この頃、妙見宮は社領を失って荒廃し、祭礼も途絶えてしまったようである。

慶長5年（千六百年）の関ヶ原の戦いの後、加藤清正が肥後国熊本藩主となった。元和元年（一六二五年）、江戸幕府は一国一城令を出し、熊本藩でも佐敷・南関・内牧城が廃止されたが、水陸の交通の要衝にあつた麦島城は存続が許され、さらに、元和五年（一六一九年）の大地震によって崩壊した後も、幕府は再建を許可した。新しい城は、中世以来の貿易港であつた徳淵津に面した松江の地に建てられ、これが、現在、市中心部に本丸跡を残す八代城（松江城）である。

藩主忠広（清正の息子）の命を受けて、八代城の建設にあつた加藤正方は、城が完成した元和八年（一六三二年）、妙見宮の社殿を再建した。

寛永九年（一六三二年）、加藤氏は改易され、豊前国小倉藩主であつた細川忠利が熊本藩主となり、八代城には忠利の父忠興（三斎）が入城した。

妙見宮に参拝した三斎は、細川家の家紋（「九曜」と「引両」）が、妙見宮の神紋と同じであることを「不思議の因縁」と感じ入り、祭礼の復興に力を入れた。寛永十二年（一六三五年）には、神輿や祭礼道具、装束などを寄進し、神輿の天井には、自ら龍の絵を描いたと伝えられている。

三斎の没後、八代城は細川家筆頭家老の松井氏（三万石）にゆだねられ、祭礼は細川氏の名代として松井氏がとり行うことになり、引き続き、妙見宮や祭礼の整備が続けられた。

町人文化が花開いた元禄の頃（十七世紀の終わり頃）、八代町から笠鉾や獅子舞、亀蛇など、趣向を凝らし、贅を尽くした出し物が奉納されるようになり、次第に豪華になつていった。約二百年前（十九世紀初め頃）に松井家のお抱え絵師が描いた祭礼絵巻によれば、この頃にはすでに、ほとんどの出し物が出揃つていたことがわかる。明治維新や戦後の混乱など、祭礼を維持するのが難しい時代もあつたが、人々の努力により、現在も、江戸時代以来の伝統が受け継がれている。とくに「西王母」をはじめとする九基の笠鉾は、江戸

時代に作られたものが今も使われており、妙見祭を特徴づける貴重な存在となっている。

笠鉾九基と三斎が寄進した神輿は、平成十五年四月「妙見宮祭礼神幸行列関係資料」として熊本県の重要民俗文化財に、また、行列全体は、平成二十三年三月「八代妙見祭の神幸行事」として国の重要無形民俗文化財に指定された。さらには、平成二十八年、日本を代表する「山・鉾・屋台行事」としてユネスコの無形文化遺産に登録される予定である。

【参】笠鉾「西王母」の歴史

江戸時代の記録によれば、天和・貞享（二六八一年〜一六八七年）の頃、宮之町以外の八つの町から「二重の蓋」を持つ笠鉾が出されるようになり、はじめは粗末なものだったが、二十年ほどで次第に豪華になっていったことが記されている。

宮之町の笠鉾は、はじめは一人で持つ形の傘だったものが、元文三年（一七八三年）、他の町と同じように四人で持つ形になり、菊慈童の作り物をのせるようになった。

通町（江戸時代は「新町」）の笠鉾には、江戸時代の年号が書かれた部品がいくつもあるが、延享元年（一七四四年）の墨書がもつとも古く、これが現在の笠鉾の制作年代と考えられる。

明和元年（一七六四年）に、熊本藩士の小笠原長意が記した妙見祭の見物記録（「八代紀行」）によれば、「新町 西王母 下は六角の笠二段 右同黒縹子下り」と記されており、江戸時代に描かれたいくつかの妙見宮祭礼絵巻にも、すべて西王母が描かれていることから、通町の笠鉾は当初から西王母の人形を乗せていたようだ。

他の笠鉾もそうであるが、なぜ、西王母が選ばれたのか、その理由は今だにわかっていないが、能の曲目であることから、当時の八

代町の人々が能に親しんでおり、不老長寿や天下泰平を表す西王母の物語に願いを込めたのではないかと考えられている。

笠鉾を構成している部品には、古い墨書や修理の跡がたくさん見つかっており、これらは、通町の人々が折にふれ、補修や新調を繰り返しながら代々大切に守ってきた証拠である。

笠鉾「西王母」について

通町から妙見祭に出される笠鉾は「西王母」といい、三千年に一度しか実がならないという貴重な桃を持って現れ、皇帝に献上し、美しい舞を舞うという能の「西王母」という物語に登場する美しい仙女である。

西王母が現れるのは、世の中が平和で人々が幸せに暮らしているとき、とされており、そういう世の中であってほしい、という人々の願いが込められていると考えられている。

笠鉾「西王母」は、約二百個の部品から構成されているが、その中には「延・享・元・年・甲・子」という六つの文字が墨で書かれたものがあり、組み立てのときの合印になっている。これは、一七四四年の年号（延享元年）と干支（甲子）であり、このとき、現在の笠鉾の大部分が制作されたと考えられる。

